

環境安全活動計画・実績

Planning / Progress

● 環境安全活動計画・実績

企業の社会的責任(CSR)への取り組みが注目されています。製薬協会員会社は、優れた創薬科学技術を通じ世界の人々の健康と福祉に貢献するという社会的使命を果たすとともに、良き企業市民として行動し、社会の信頼と共感を獲得して行かねばなりません。こうした基本認識のもとで、環境安全委員会では環境保全、社会貢献活動や地域社会の発展への寄与などを積極的に事業活動の中に取り入れていくことは、企業の責務であると考えています。

環境安全委員会の各組織では、会員会社の環境安全活動を支援すること、および当委員会として、社会に貢献することを

念頭に年度事業計画を策定しています。業界横断的な取り組みが求められる事項については企画会議が窓口となり、部会と連携を取りながら関係者との情報提供や意見交換を図っています。2005年度は、医薬品等廃棄物に関わる専門回収・処理ルートを日本製薬団体連合会と協力し、日本薬剤師会と検討を始めました。また日本病院薬剤師会と協働で医療機関が医薬品容器包装の適正処理の参考にするための「医薬品容器包装等の廃棄に関する手引き」のフォローアップ調査を実施し改定版を提案しています。

製薬協企業行動憲章(抜粋)

製薬協企業行動憲章(2004年11月17日公表)は、会員企業が企業行動憲章の精神を尊重し、自主的に実践していくことを申し合わせる13の項目を制定しています。

(全文は製薬協ホームページ

<http://www.jpma.or.jp/policy/kensyo.html> 参照)

また、会員企業が憲章の精神を理解し、自主的に社内徹底を行い実践していくための参考として憲章の各項目について解説を加えた「製薬協企業行動憲章実行の手引き」を策定しています。

環境問題への取り組みは人類共通の課題であり、企業の活動と存続に必須の要件であることを認識して、自主性、積極的に行動する。

1.省エネルギー・地球温暖化対策、省資源・廃棄物対策、化学物質管理等の取り組み

「持続可能な発展」の次世代への継承は人類共通の課題であり、今を生きる私たちの社会的な責任である。企業は事業活動が地球規模の資源問題、温暖化問題、環境汚染問題に深く係わることを認識し、循環型経済社会の構築、温室効果ガスの削減、化学物質の管理等に努力する。また、製薬協で制定した環境に関する自主行動指針に沿って企業は環境保全に向けた自主的・継続的な取り組みを強化する。

2.組織運営体制の強化及び環境負荷と環境リスクの低減

研究・生産・営業から廃棄に至る事業活動の全段階において、システム的に環境影響を評価し、各段階における環境負荷・リスクを洗い出し、強固な組織運営体制により、その低減に努める。また、環境コミュニケーションに努め、地域社会との協働・共生を促進する。

3.生物多様性の保全を含む自然保護活動の取り組み

大気圏や生物圏、あるいは水の循環圏などについて、一層理解を深めるとともに、人類にとって多様な生物が共存することが、豊かな生活環境をもたらすことを改めて認識し、多様な自然環境の保全を重視した自然保護活動を推進する。

従業員の多様性・人格・個性を尊重するとともに、働きがいのある、安全で豊かな労働環境を実現する。従業員の倫理観の高揚と資質の向上を図ることは企業の責務である。

1.従業員の安全と健康の確保は企業経営において優先されるべき事項である。経営トップの率先垂範の下に「安全第一主義」を徹底し、労働安全衛生対策が企業内で自立的に促進される体制作りに努める。



● 2005年度事業計画の達成状況・2006年度計画

2005年度事業計画項目	2005年度事業の実績	成果の評価	2006年度の課題(計画)
環境マネジメント <ul style="list-style-type: none"> ● 環境マネジメントシステムのフォローアップ ● 労働安全衛生マネジメントシステムの導入検討 ● 環境報告書作成支援 ● 環境会計の活用 	<ul style="list-style-type: none"> ● 環境と労働安全衛生マネジメントシステムの調査結果を情報発信 ● 「環境マネジメントと評価基準」の改訂版作成 ● 労働安全衛生マネジメントシステム導入手引き作成 ● 環境関連報告書の調査結果報告 ● 廃棄物に関する監査チェックリスト作成 ● 内部環境会計の調査・検討 	<p>予定した調査・研究は全て完了し、報告書に纏めてホームページに掲載するとともにCD-ROMに収載して会員各社に配布した。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 環境マネジメントシステムのフォローアップ ● 労働安全衛生マネジメントシステムの導入支援 ● 環境関連報告書の作成支援 ● 環境会計の活用検討
化学物質管理 <ul style="list-style-type: none"> ● PRTR調査 ● 化学物質自主管理活動の継続 ● リスクコミュニケーション・リスクアセスメント推進 	<ul style="list-style-type: none"> ● PRTR実績調査報告書作成 ● 有害大気汚染物質の排出量削減調査を実施し報告書を作成・発信 ● 土壌汚染対応のロールプレイシナリオに基づくQ&A作成、METI-LISの使用法習得 	<ul style="list-style-type: none"> ● PRTR対応の推進 ● 有害大気汚染物質の削減目標の達成 ● リスクコミュニケーションの在り方や進め方について情報共有 	<ul style="list-style-type: none"> ● PRTR調査 ● 化学物質自主管理活動の継続 ● 河川・下水・飲料水等に含まれる残留医薬品 ● リスクコミュニケーション・リスクアセスメントの推進
省エネ・温暖化防止 <ul style="list-style-type: none"> ● 経団連環境自主行動計画のフォロー ● 省エネ・温暖化ガス排出削減対策の支援 ● 温暖化防止政策等調査 	<ul style="list-style-type: none"> ● アンケート調査、フォローアップ報告ならびに会員各社に年次報告発信 ● 省エネルギー対策、CO₂排出量削減対策に関する技術情報の野提供 ● 第9回技術研修会の企画・運営 	<ul style="list-style-type: none"> ● 調査結果を技術資料集としてCD-ROMにて会員各社に配布 ● 新技術・新エネルギーの情報収集・発信 	<ul style="list-style-type: none"> ● 日本経団連環境自主行動計画のフォローアップ ● 京都議定書への対応策検討および調査 ● 技術研修会(GHG排出量削減) ● 温暖化防止政策等調査
省資源・廃棄物対策 <ul style="list-style-type: none"> ● 環境自主行動計画と廃棄物処理実態調査 ● 廃棄物削減・容器包装改善支援 ● 医薬品に係わる廃棄物問題の取り組み ● ライフサイクルアセスメント(LCA)調査・研究 	<ul style="list-style-type: none"> ● 年次の廃棄物処理実態調査によりフォローアップ情報を報告書にして発信 ● 廃棄物削減・容器包装に関する情報の共有化 ● 在宅医療廃棄物処理や医薬品の適正な廃棄方法について調査・検討 ● 医薬品に係わるLCA手法の検討 	<ul style="list-style-type: none"> ● 調査の継続と事例集活用等により目標を前倒し達成 ● 医療廃棄物研究会や薬剤師会とタイアップした活動 	<ul style="list-style-type: none"> ● 環境自主行動計画と廃棄物処理実態調査 ● 廃棄物削減・ゼロエミッション検討 ● 容器包装改善支援 ● 医薬品に係わる廃棄物問題への取り組み
企画会議 <ul style="list-style-type: none"> ● 課題の方針決定 ● 部会間調整 ● 環境報告書の作成・発行 ● マスコミ他外部対応 	<ul style="list-style-type: none"> ● 業務の効率化推進 ● 環境省、経産省、経団連、日薬連、薬剤師会、医療廃棄物研究会との会合 ● 「環境報告書2005」日本語・英語版発行 	<ul style="list-style-type: none"> ● 外部団体との協働 ● タイムリーな情報発信 	<ul style="list-style-type: none"> ● ワーキンググループ活動と研究会活動の効率的な推進 ● 外部団体との協力体制の強化 ● タイムリーかつ適切な情報発信とコミュニケーション